

平和の大切さを伝えるために



8月6日、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式が広島市の平和記念公園で行われ、本市から市内公立中学校および義務教育学校の生徒代表16人を含む20人の平和使節団が参列しました。原爆が投下された午前8時15分に黙とうをささげると共に、平和への願いを込めて折った千羽鶴(約1万5千羽)を「原爆の子の像」へと献納してきました。

団総務課 ☎826・1111 内線2212



梅澤義昭さん(土浦市地区長連合会)

被爆地広島は、今年で原爆投下から73年の「原爆の日」を迎え、平和記念公園で原爆死没者慰霊式・平和記念式典に参列しました。記念式典は猛暑の中、厳粛のうちに執り行われ、平和宣言で広島市長は核兵器禁止条約の発効に向け、国際社会に「対話と協調」を要請、安倍首相は核兵器のない世界を「我が国の使命」との挨拶があった。今後、原爆の悲劇を二度と繰り返してはいけないし、核兵器のない世界になることを望みたい。



東ヶ崎とみさん(土浦市女性団体連絡協議会)

広島市の原爆ドーム、資料館を訪れ、核兵器の恐ろしさ、戦争、原爆のむごさを学びました。核兵器と人類は共存できないことは明らかです。広島市の悲劇を二度と繰り返さない為に、核廃絶にむけ、恒久平和実現の為、全世界の人々が英知を結集していけたら良いと思います。使節団の一員として広島で知り得たことを周りの人々に伝えていくことが使命だと実感しました。



飯島展志さん(土浦青年会議所)

昭和20年8月6日、広島の上空に原子爆弾が投下されてから73年の月日が経ちました。このたび、土浦市の16名の中学生たちと土浦市平和使節団として広島に派遣され、平和の意味を深く考える機会となりました。当時のことを知る方々が少なくなっており、あの悲惨な経験を後世につないでいく使命が、私たちにはあります。平和の尊さを実際に肌で感じ恒久平和への強い思いと戦争の悲惨さを決して忘れてはなりません。



高谷直樹さん(土浦五中 教諭)

8月5日、市内16名の中学生達とともに、広島市の平和記念公園を訪れました。平和の鐘を鳴らし、手を合わせ、各校でつくり上げた千羽鶴を捧げてきました。翌日は平和記念式典に参列し、戦争の悲惨さを後世に伝える大切さを感じ、核兵器のない世界の実現に向けての取り組みなどを真剣に聴きました。参加した生徒達の表情からは、この経験を多くの人に伝えたい思いを感じました。



磯山修伍さん(土浦一中 2年)

私は、今回の平和記念式典に参加して、普段生活しているだけでは分からないことを学ぶことができました。広島でしか見ることができない建物の傷跡や、平和に対する強い願いなど、多くのものを感じました。なので、この経験を糧に、今後にかしっていきます。



關野真由さん(土浦一中 2年)

広島平和記念資料館では、原子爆弾の熱線や、爆風、放射線により、瞬時に多くの人の命が奪われ、町全体が破壊されたことを学びました。だから私は、核兵器が使われない平和な世界になることを強く願います。



杉山登玲さん(土浦二中 2年)

広島を訪れ、「平和」とは、全ての人が平等に時を刻めることだと痛感しました。1945年8月6日の原爆投下から、14万もの命が失われている現実。平和記念式典に参加し、資料館を巡り、戦争の怖さ、平和の尊さ、大切さを考える機会となりました。



鳴崎 愛さん(土浦二中 2年)

広島平和使節団に参加して、私は今まで、原爆のことを深く理解していなかったと身に染みて感じる事ができました。今この瞬間にも苦しんでいる被爆者の方々。その人数が0になる前に、まだ大量に残っている核の数が減ることを願います。

■野村匠平さん(土浦二中 2年)



広島を訪問させていただき、原爆の恐ろしさや悲惨さを痛感しました。一発の原子爆弾で何の罪もない多くの命が奪われたことはとても悲しく思いました。このような悲劇が二度と起きぬよう、僕達が後世に伝承していかなければならないと思います。

■幸崎 菜さん(土浦三中 2年)



広島には、73年前の8月6日午前8時15分に投下された原爆の爪跡が今でも残っていることに驚きました。平和記念式典に参加できたことは私の財産になりました。この先、核兵器が無くても皆が穏やかに生活できるような世界になることを祈り続けたいです。

■王子雄太郎さん(土浦四中 2年)



僕は今回の広島訪問で、原爆ドームが町の中に平然と建っていることに衝撃を受けました。まるで町全体が原爆を象徴しているかのようでした。どんなに町が近代化しても、そこに存在し続け、原爆の愚かさを伝えていきます。僕達にもその責任があると感じました。

■細田苺美さん(土浦四中 2年)



私は広島を訪れ核兵器の恐ろしさを学ぶことができました。原爆が投下されて73年が経つ今、私たちにできることは原爆を知ることだけでなく、核兵器廃絶に向け後世に平和の大切さ、命の尊さを伝え広めなければならないことだと改めて強く感じました。

■榎本圭泰さん(土浦五中 2年)



僕は、広島で原子爆弾の恐ろしさに他に、学んだことがあります。それは、国民の原子爆弾に対する思いです。二度と使ってはいけないということももちろん、作ってはいけないということも強い思いを広島の間で感じました。

■中村真緒さん(土浦五中 2年)



私が訪れた広島は、美しい街でした。ここで起きた原爆による惨状は、私の予想をはるかに上回るものでした。心と体で感じたこの経験を活かし、バトンを受けとった気持ちで、日本のみならず、世界の一人でも多くの人に伝えていきたいという目標を持ってました。

■原田 信さん(土浦六中 2年)



広島は、とても大きな都市でした。平和記念公園の中に立っている石碑を見るまでは、原始爆弾が投下された事は嘘だったのではないかと思うほどでした。だからこそ、忘れ去られてゆく戦争の記憶を後世に残していかなければならないと思いました。

■池崎あい佳さん(土浦六中 2年)



私が広島平和使節団として、派遣されたときに特に印象的だったのは、原爆ドームです。その姿からは、原爆の恐ろしさを、「ヒロシマ」を忘れてはならない、という沢山の人の思いが詰まっているように見えました。その思いを次の世代へ繋ぎたいと思います。

■齊藤優翔さん(都和中 2年)



私は、平和使節団として広島を訪れ原爆の恐ろしさを実感しました。原爆ドームは、原爆投下により鉄骨やレンガの一部が大破し原爆の衝撃の凄まじさが伝わってきました。戦争の残酷さ、悲惨さを学び、平和の大切さを後世にも受け継いでいきたいと思いました。

■中島ゆかりさん(都和中 2年)



土浦市平和使節団の一人として参加し、原爆の惨状などを知る貴重な体験を得ることができました。原爆ドームや資料館などでは、とても心苦しくなっていました。世界の平和を願いながら、少しでもこの貴重な体験を生かしたいと思いました。

■塚本匠哉さん(新治学園 8年)



今回、代表として広島に行き、原爆を受けた人の苦しみや町の様子を知ることができました。夜、とうとう流しを見ました。みなさんが流すとうろろには、平和への思いが書いてあり、戦争から73年経った今でも、平和への強い想いと核兵器の恐ろしさを感じました。

■橋本 藍さん(新治学園 8年)



私は土浦市平和使節団の一員として、平和記念式典に参加できてとても嬉しかった。初めて広島を訪れたが、原爆ドームは原爆、戦争の悲惨さを物語っていた。そして、73年前の事実を、被爆者の思いを、「ヒロシマ」を語り続ける大切さを知った。

(原文のまま)